

根戸新田地区集落座談会 会議録

1. 会議名称 根戸新田地区集落座談会
2. 開催日時 平成 27 年 2 月 25 日（水）午後 6 時 00 分から午後 7 時 30 分まで
3. 開催場所 根戸新田青年館
4. 会議に出席した者の氏名

農業者	7 名
農業委員	2 名
農業委員会事務局	1 名
農政課	6 名

5. 協議区域の範囲 根戸新田集落（主に根戸新田地区）
6. 議題
 - （1）人・農地プラン策定による事業の活用について
 - （2）農地中間管理機構による協力金の活用について
 - （3）多面的機能支払制度について
 - （4）ナラシ対策について
 - （5）根戸新田排水対策工事について
 - （6）その他
7. 協議結果を取りまとめた年月日 平成 27 年 3 月 2 日（月）
8. 会議の内容

農政課から、人・農地プラン策定事業として集落座談会開催の趣旨を説明した。

続いて、我孫子市と根戸新田地区の農業の現状（農業者の高齢化や耕作放棄地の増加等）、及び根戸新田地区の「人と農地の問題を解決する」ための諸施策について、以下説明と問題提起を行った。

- ・ 「人・農地プラン」は地区ごとに作成することが望ましく、このプランを充実させていくためには、市内の各集落における継続的な話し合いが必要であることを問題提起した。
- ・ 集落営農及び法人化への推進について説明を行った。
- ・ 後継者の育成、農地中間管理事業の活用及び集積協力金について説明を行った。
- ・ 集落で農地整備等を行い、交付を受ける多面的機能支払いについて説明を行った。
- ・ 米価下落対策としてナラシ対策の概要について説明を行った。
- ・ 手賀沼沿い農地活用計画に基づく根戸新田工区排水対策について説明を行った。

農政課の説明と問題提起を受けた後の主な質疑応答は次のとおり。

○ 議題（1）から（4）について

農業者:担い手の年齢について、ある程度の制限があるのではないか。

農政課:基本的には、65歳ぐらいまでである。

農業者:子供もだって30～40歳になり、10年から20年もすれば仕事もできなくなる。

農政課:サラリーマンを退職して始めている方もいるが、担い手になってやるというよりも、親から引き継いだ農地を守っているケースが多いと把握している。

農業者:都市計画道路の高さで田んぼをやるのならばまだしも、今の状況だととてもじゃないができない。

農政課:他の地区と同じ話ができないと思っている。

農業者:手賀排水機場の修繕は終了したのか。

農政課:平成27年度で終了する予定であったが、平成28年度まで延長する可能性もあると聞いている。

農業者:人・農地プランや担い手対策といっても、この地区では馴染まないのではないか。

農政課:今日の座談会では、国が進めている施策や交付金の制度について、他地域と同様の説明をさせていただいた。この地区は農地条件が悪く、農地集団としても狭いので、担い手を育てるのが難しいことは承知している。今回の座談会で何らかの方向性を確認するものではないので、説明した国の制度等を頭にいれて、今後活用しようと思うようなときには市に相談してもらいたい。

○ 議題(5)から(6)について

農業者:排水対策で客土をするのもいいが、都市計画道路の下側を浚渫してもらいたい。そうしないと排水したものが逆流してくる。

農政課:管理する柏土木に話をしていく。

農業者:都市計画道路によって分断されてしまったために排水が悪くなった。

農政課:皆さんの要望をもとに、今できることを考えた結果、排水対策工事を行うことが適当と判断した。

農業者:5年とか10年でもう1回やり直すというものでは意味がないと思っている。30年、40年、50年持つようなものを作ってほしい。

農政課:30年、40年、50年持つような基盤整備事業は、土地利用規制のかかる土地改良事業となるだろう。この地区の皆さんは、そういう事業は望まないと言ってきたはずだ。今回の排水対策工事は、そのような事業にはならない。それで了解してもらっていると考えている。

農業者:工事をやって効果がなかったらどうするのか。

農政課:ゼロか百かではない。今、話したように、百を求められても無理だと考えている。かといって、皆さんはゼロで良いと言わない。農地を継続して活用してもらおうで、当分の間、使い勝手が今より良くなってもらえればと思っている。

農業者:自分の農地は、前の暗渠が効いているところもある。個々の要望は聞いてもらえるのか。

農政課:個々に要望を聞く予定だが、その要望に対してすべて対応できるわけではない。今回の排水対策工事を望まないという所があれば、そこは除外して施工するつもりだ。

農業者:田んぼではなく、畑を客土する場合はあるのか。田んぼを客土すると、その上の畑の排水が悪くなることもあるのではないか。

農政課:今回の事業で、畑の客土等は計画していない。田んぼの排水改良を考えている。個々の農地については、個別に聞き取りして対応していきたい。

農政課:その他として、手賀沼沿い農用地等活用事業補助金について説明し、27年度の手続きについて案内した。